

(3) 昨年度の教育行政評価委員会においての意見に係る対応

全体

| ● 全体 | |
|------|--|
| 意見 | ・既に令和9年度の成果目標を達成している項目もあるため、次の目標を設定することを考えるとよい。 |
| 対応 | <p>・新たな目標値を設定することが妥当であるか項目ごとに判断していきます。</p> <p>(1) 市内農産物の活用回数 (P12) →市内農産物の収穫量の影響を受けるため現状と同様5回とします。</p> <p>(2) 子どもや保護者へ向けた食育講座の実施回数 (P12) →目標値を8回から15回に変更します。</p> <p>(3) 「自立・共生・挑戦等に関する調査」の結果 (P15,17,23) →目標値に達成している項目もありますが、目標値は現状と同様とし達成できるよう事業を推進していきます。</p> <p>(4) 土曜講座参加者 (P23) →講座の内容により参加者数を限定する必要があるため、現状と同様700人とします。</p> <p>(5) PTA 家庭教育学級の満足度 (P26) →目標値を80%から85%に変更します。</p> <p>(6) 「パパとママの初めての子育て講座」の参加者 (P26) →目標値を120人から135人に変更します。</p> <p>(7) 「青少年まちづくり市民会議」の行事におけるボランティア参加者(児童生徒) (P27) →令和6年度の実績が集計中であるため、現状と同様とします。</p> <p>(8) 「hyper-QU」における学級生活満足群 (P35) →目標値と同等程度であるため、現状と同様とします。1回目と2回目の結果を比較するようにします。</p> <p>(9) たじっこクラブは楽しいですか (児童) (P43) たじっこクラブの保育内容について満足していますか (保護者) →たじっこクラブの保育の充実度と捉えており、現状と同様の90%以上を目標としていきます。</p> <p>(10) 幼・保と小学校の合同研修会の実施 (P47) →目標値を1回/年から3回/年に変更します。</p> |

施策2 社会性と豊かな心を育む教育の推進

| ● 心の教育の充実 | | P13 |
|-----------|---|-----|
| 意見 | 「子どもの権利セミナー」について、各校1名の参加となっていることであるが、1名でも多くの教職員に参加してもらいたい。 | |
| 対応 | 各校1人及び希望者を募りましたが、希望者は数名にとどまりました。多くの教職員に参加してもらうことができるよう講演のPRをくらし人権課と連携して進めていきます。 | |

| ● キャリア教育の推進 | | P16,20 |
|-----------------|--|--------|
| ● 郷土愛を醸成する教育の推進 | | |
| 意見 | 地域の一人として、企業人として子どもと繋がる機会が増えていることに感謝している。窯業に関わったり、農業に関わったりしながら、地域への愛着が進んでいると感じる。 多治見市の過去の人物にスポットを当てて、時代背景と共に学ぶと地域への愛着がさらに深まると思う。 | |
| 対応 | 郷土の豊かな歴史や文化を体感できる土曜学習講座の開催や地域文化財を活用した学びの機会の提供を行うことで、地域への愛着が深まるよう努めました。(例:「歴史探偵になろう①～③」など) | |

施策3 家庭、学校・園、地域の連携の推進

| ● 親育ち支援事業の充実 | | P24 |
|--------------|---|-----|
| 意見 | ママへの啓発活動に加えて、パパへの啓発活動にも力を入れると良い。 | |
| 対応 | 保健センター主催の「ママパパスクール」(妊娠・出産クラス、子育てクラス)、教育委員会主催の「パパとママの初めての子育て講座」等、パパとママが一緒に参加できる講座の周知を進めています。 | |

| ● 青少年健全育成事業の推進 | | P27 |
|----------------|---|-----|
| 意見 | 青少年まちづくり市民会議の行事では、参加者よりボランティアが多い。行事の意味や地域の発展にどのように繋がるかをPRしていくことが参加者を増やすためには重要である。 | |
| 意見 | 青少年まちづくり市民会議の後継者不足が話題となるが、青年会議所やロータリー、ライオンズなどには地域のために活動を行いたい方も多いと思う。青少年まちづくり市民会議について知らない方も多いと思うのでPRをするとよい。世代交代も必要である。 | |
| 対応 | 毎年2月に開催される「多治見市青少年まちづくり市民大会」では、小中学生と地域の方が各校区(毎年3校区)の活動報告を行います。活動の成果が伝わるよう各校区で工夫しています。 | |

施策5 学びを支える教育環境の充実

| ● 教職員の働き方改革の推進 | | P48 |
|----------------|--|-----|
| 意見 | 成果目標で、月の超過勤務時間が 80 時間を超える教職員の数が急激に減少したことは素晴らしい。教員の働きがいということも重要であると説明があったように、働きがいがあるかどうかのアンケート結果もあると良い。教員の働きがいが良い教育につながる。 | |
| 対応 | 教職員のストレスチェックで「働きがい」の集計項目がありましたので結果として記載しました。 | |

総合的な意見

| 全体を通して | | |
|--------|--|--|
| 意見 | 評価委員会の資料が見やすく、評価がしやすくなった。来年度は、「目標、取組」となっている資料を「計画、実行」とするとよいと思う。 | |
| 対応 | 昨年度の報告書に記載の「令和6年度取組予定」を「令和7年度計画」とし、それに対する「取組・実績」、「成果・効果」を掲載しました。 | |
| 意見 | 第3次教育基本計画となり施策が充実し、2時間では評価するのが難しくなっていると感じる。 | |
| 対応 | 教育行政評価委員会においての事務局説明は要点を絞り、評価していただくための質問、意見の時間を確保していきます。 | |